

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 **4** 回 助成期間：平成 **19**年11月1日～平成 **20**年10月31日（期間 **1** 年間）
テーマ：CO2削減に取り組み、地球環境保全に積極的に関わり実践する子どもの育成をする
氏名： **舘野健三** 所属： **前東京都大田区立梅田小学校** 登録番号： **07126**

1. 課題の主旨

日本の未来を背負って立つ子ども達に次のことを教育する

- ① 地球環境保全に対する関心を高める
- ② CO2削減の具体的な行動が取れる子どもを育成する
- ③ 地球温暖化防止のために努力している企業の方策を学ぶ
- ④ 貴社日産自動車株式会社の企業努力を子ども達に学ばせて、日本の企業のすばらしさを知らせ、次世代がさらにCO2削減に努力する人々を増やしていく
- ⑤ 子ども達が出来ることからCO2削減に挑戦して、そのことを世に問うていける子に育成する

以上のことを、各学校の教室で子ども達に授業をしていく中で、子ども達のCO2削減に向けた指導をしていく。
いかに地球を守り、未来の世界をより住みやすくするかを子ども時代から考える子に育成する。

又、各学校の指導者である教員を集め、CO2削減のセミナーを開催する。

セミナー参加の教員が、各学校に帰って、セミナーで学んだCO2削減の授業啓発指導をしよう。

さらに、京都議定書の会議で日本政府代表の神田啓治京都大学名誉教授からCO2削減についてセミナーを開催して指導、講義を受けて学ぶ

2. 準備

- ① CO2削減研究会を発足
- ② CO2削減研究会毎月1回以上行う
- ③ 神田啓治先生と連絡を取り、都合の良い日にCO2削減セミナーを開催する
- ④ CO2削減セミナーの会場探し、予約、を行う
- ⑤ CO2削減セミナー参加募集広告を作り、参加者を募る(150～250名)
- ⑥ CO2削減の授業計画を作る

3. 指導方法

- ① 各教室でCO2削減の授業を行う
- ② 子ども達に手回し発電機を使って発電の授業を行う
- ③ 神田啓治教授を招いて指導を受け、それを各教室で授業に生かす
- ④ CO2削減の授業について指導案検討する
- ⑤ 毎月CO2削減会議を持ち、指導法を検討する

4. 実践内容

- ① CO2削減研究会の告知、宣伝、啓発
- ② CO2削減研究会の定例会毎月1回以上開催(以前から開催)かつ、参加の呼びかけをセミナーとする
- ③ CO2削減セミナー企画参加
- ④ 神田啓治教授(京都議定書会議議長)講演参加。指導を受ける
- ⑤ CO2削減研究の授業案検討
- ⑥ 環境エネルギー、CO2削減の教材教具活用研修
- ⑦ 各勤務校においてCO2削減教育を実施
- ⑧ 実践記録作成

5. 成果・効果

- ① 子ども達がCO2削減の授業を受けて関心を高めた。
- ② 子ども達がCO2削減の授業を受けたことを、家庭や地域でCO2削減について啓発、行動するようになった。保護者のCO2削減の啓発に役立った。
- ③ エコサイクルや地球温暖化について関心を持ち、自分の出来る省エネに心がける子が増えた。
- ④ CO2削減研究会主催セミナーに多くの教員、保護者が参加してくれるようになった。
- ⑤ CO2削減研究会のセミナーに参加教員は、各学校でもCO2削減に向けての授業を実施してくれる人が多くなった。
- ⑥ 日産自動車のCO2削減研究を理解できた。これを多くの子ども達に伝えていきたい。

6. 所感

7. 今後の課題や発展性について

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

【教材制作方法】

- 実施内容が教材開発の場合、ここから1～2ページ使って、教材の制作方法を記載願います
- 実施内容が教材開発でない場合、このページ以降を削除願います

